

# 中之又小だより

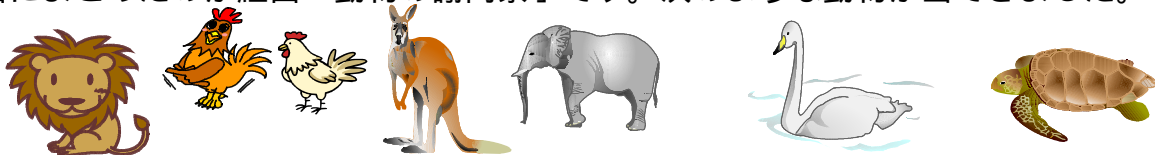
聴く・美しく・遅しく

NO5 平成20年5月23日

このところ夏日を思わせる暑い日があるかと思うと、気温が下がり肌寒い日もあり、衣替えに迷う今日この頃ではないでしょうか。季節の変わり目は体調管理に気を付けたいものです。

先日6年生3名は、宮崎県立芸術劇場で開催された宮崎音楽祭「子どものための音楽祭」に参加しました。プログラムは2部で構成され、ピアノの連弾と管弦楽の演奏でした。1部のピアノの連弾は、ドヴォルザーク作曲の「スラヴ舞曲集より」でした。ピアノ演奏者のレオン・フライシャーさんは、宮日新聞のコラム欄でも紹介がありました。34歳の時に病気のために右手が不自由になり、左手のピアニストとして活動し、40年後に病気を乗り越えて、75歳でまた両手で弾けるようになった奇跡のピアニストです。奇跡の両手と呼ばれるフライシャーさんのピアノに対する情熱を感じ取りながら聴きました。

2部の管弦楽団の演奏はサン＝サーンス作曲の組曲「動物の謝肉祭」でした。サン＝サーンスは、いろいろな作曲家が作った馴染み深いメロディーを巧妙に用いて、いろいろな動物を表現しました。様々な動物の生態を愉快地に表現した短い曲をいくつも作り、一つの曲にまとめたのが組曲「動物の謝肉祭」です。次のような動物が出てきました。



他にも、水族館、ピアニスト、化石などを表現した曲もありました。いろいろな楽器が奏でる音をととても愉快地に聴くことができました。優れた演奏家が音響効果設備の整った県立芸術劇場で演奏する本格的なクラシック音楽を鑑賞できたことは、子どもたちにとって、貴重な体験になったことと思います。音楽が好きになった子どもたちが、きっと増えたと思います。

## 中之又小学校のあいさつ運動

中之又小学校の本年度重点目標の一つに、あいさつ運動を取り上げています。「心豊かで明るい子ども」を目指して地域や家庭と連携し、あいさつを中心とした基本的な生活習慣の育成に努めています。

19日から23日までの1週間は、あいさつ運動を推し進める期間でした。学校では元気よくあいさつができていました。地域での子どもたちのあいさつはいかがだったでしょうか。

このあいさつ運動は、木城町全体の実践項目として掲げており、あいさつ励行日本一を目指しています。

あいさつはコミュニケーションの一步です。あいさつを交わすことでお互いに気持ちがよくなります。あいさつされた人も周りの人もすがすがしい気持ちになります。子どもも大人も、いつでも、どこでも、誰にでもあいさつすることを自覚し、声を掛け合っていきたいものです。

木城町では、次のあいさつを努力目標にしています。

「おはようございます。」

「いただきます。」

「ごちそうさま。」

「行ってきます。」

「こんにちは。」

「さようなら。」

「ただいま。」

「おやすみなさい。」

更に、次の「ことば」が言えるようにあいさつ運動を進めます。

素直な心「はい。」「いいえ。」

反省の心「すみません。」

感謝の心「ありがとうございます。」

謙虚な心「失礼しました。」

奉仕の心「私がいたします。」

まず学校、家庭で取り組んでいきますが、地域の皆様方の励ましもお願いいたします。

## 南極の氷

6月6日(金)に南極の氷がやってきます。南極観測船「しらせ」が持ち帰ったものです。スクールバス運転手の山添さんや木城町の自衛隊関係者のお世話で実物を観察することになりました。子どもたちは、実物を見て氷の大陸南極に夢を馳せることと思います。